

2016年5月1日 礼拝メッセージ

聖書：第二サムエル記 19章 24～30節

説教：わが主、わが王

あらすじ

ダビデの息子アブシャロムはイスラエルの王となるために父に向かって戦争をしかけます。それを聞いたとき、ダビデは急いでエルサレムから脱出し荒野に逃れます。戦いはダビデの勝利で終わり、いまエルサレムに戻ろうとヨルダン川を渡ろうとしています。そのとき多くの人々が続々とダビデのもとにやってきました。今日の箇所が登場するメフィボシェテもそのひとりでした。彼にはなにか複雑な事情があったようです。彼の身の上になにか起きたのか。ダビデはそれを聞いてどのように考えたのか。そこからどんな神の恵みが見えてくるのか。さぐってまいります。

そもそもメフィボシェテとは何者であるのか。話は、初代イスラエルの王であるサウルが息子ヨナタンとともに戦場で倒れたときにさかのぼります。サウル王が倒れたとの知らせがサウルの家にもたらされたとき、ヨナタンの息子メフィボシェテはまだ小さく、乳母が子どもをかかえて逃げようとしたのですが、あわてていたので床に落としてしまいます。それ以来メフィボシェテの足には障害が残ります。

後になって、ダビデがイスラエルの王となったとき、ダビデはこのメフィボシェテを引き取り、自分の家族と同じような扱いにします。その世話役として指名されたのがツイバという人物でした。そのような事情が背景にあることを覚えておいてください。

1 二つの証言

1) ツイバの証言 (16章 1～4節)

さて話は、ダビデがエルサレムから逃れるときのことに移ります。ダビデから親切を受けていたメフィボシェテも当然行動をともにするべきです。ところがメフィボシェテの姿がない。代わりにやってきたのはメフィボシェテの世話役をしていたツイバで、彼は二頭のろばとパンと果物、そしてぶどう酒をもつてやって来ました。ダビデが、これらは何のためかと質問したとき、彼はこう答えました。「二頭のろばは王の家族がお乗りになるため、パンと夏のくだものは若い者たちが食べるため、ぶどう酒は荒野で疲れた者が飲むためです。」

続いてダビデは、どうしてメフィボシェテが来ないのか、不審に思ってツイバに質問します。そうしたらツイバはこう答えます。「今、(メフィボシェテは)エルサレムにおられます。あの人は、「きょう、イスラエルの家は、私の父の王国を私に返してくれる」と言っていました。」

ツイバは何を言ったか。ダビデがエルサレムから脱出するという混乱に乗じて、メフィボシェテはサウル家の世継ぎとしていまイスラエルの王になろうとしている。つまりメフィボシェテはダビデを裏切ろうとしている。ツイバははっきりとそう証言しました。

ダビデはこれを聞き、メフィボシェテが持っていた全財産を取り上げてツイバに与えるという裁断を下します。ツイバの語ったことばが本当であるかどうか、ダビデは確認しようがありません。ともかく、その時点で

は、ダビデはツイバのことばには嘘がないと、そのまま受け取ったようです。

2) メフィボシェテの証言

話は今日の箇所に移ります。戦いか終わりエルサレムに帰ろうとしているダビデのところに、あのメフィボシェテがやって来ました。当然、ダビデはメフィボシェテに尋ねる訳です。25節。「メフィボシェテよ。あなたはなぜ、私といつしよに来なかったのか。」メフィボシェテは次のように答えます。26節。「王さま。私の家来が、私を欺いたのです。このしもべは『私のろばに鞍をつけ、それに乗って、王といつしよに行こう』と思ったのです。しもべは足のなえた者ですから。ところが彼は、このしもべのことを、王さまに中傷しました。しかし、王さまは、神の使いのような方です。あなたのお気に召すようにしてください。」

メフィボシェテは二つの事を証言しています。一つ目は、自分がダビデのところに来れなかったのは、家来にだまされたからである。二つ目は、しかしそうは言っても何も証拠がある訳ではないから、判断はダビデにお任せする。その判断に全部自分は従います。そう言っています。

2 ダビデの判断

1) 証拠

ツイバとメフィボシェテ。いったいどちらの証言が本当なのでしょう。まるで推理小説のようです。こんな場合、皆さんならばどうするでしょうか。まず調査委員会を設けていろいろな証拠を集めてから、証拠に基づいて判断を下す。世の中の常識ではそうです。でもダビデはそうしない。メフィボシェテの姿

を見てそして証言を聞いて、その場ですぐに判断します。あまりにも慎重さに欠けた行動でしょうか。いいえ、ダビデはある確かな証拠をもって判断しています。推理小説風に言えば、事件現場にはいろいろな証拠が残されていました。どの証拠もツイバかメフィボシェテか、決め手に欠くように見えました。でも、ひとつだけごまかしようのない証拠がありました。何でしょうか。それは24節後半に出ています。「彼は、王が出て行った日から無事に帰って来た日まで、自分の足の手入れもせず、ひげもそらず、着物も洗っていません。」

ダビデはメフィボシェテのひげに注目しました。彼のひげは、ダビデがエルサレムから逃れた日数とちょうど合うくらい伸びていた。これを見たとき、すぐにメフィボシェテの証言には嘘がないとわかった。ということはツイバが嘘をついていたこととなります。

2) メフィボシェテとツイバとで地所を分ける

メフィボシェテの証言を正しいと判断したダビデは次のような判決を下します。29節。「あなたはなぜ、自分の弁解をくり返しているのか。私は決めている。あなたとツイバとで、地所を分けなければならない。」

ダビデがエルサレムから逃れるとき、彼はツイバのことばを信じて、メフィボシェテの財産は全部ツイバのものだ言っていました。ところが、メフィボシェテの証言が正しいと知ったダビデは、以前語ったことばを取り消して、メフィボシェテとツイバと、半分ずつに分けなさいと言います。

皆さんこれを聞いてどう思うでしょうか。

やっぱりツイバが嘘をついていたのか。メフィボシェテの名誉が回復されてよかったね。と思うでしょうか。私は最初そう思いました。しかしよく考えるとそんな単純な話ではないことに気がつきました。

というのは、もともと地所はだれのものであったのかです。ダビデがメフィボシェテを引き取ったとき、土地の所有権はすべてメフィボシェテが持つように決めていた。ツイバには所有権がなかったのです。ということは、もしメフィボシェテの証言が本当で、ツイバが嘘をついていたというのなら、土地の所有権はもとのとおり全部メフィボシェテに戻すべきでしょう。それが正しいさばきというものはずです。

しかしダビデは、メフィボシェテとツイバとで土地を半分ずつに分けるようにした。メフィボシェテにとっては非常に不公平な話に聞こえます。自分は正しく証言したのに、財産を半分に減らされ、嘘をついたツイバのほうに持って行かれた。そのように見えてしまいます。ダビデはどうしてこのような判断をしたのでしょうか。

3 神の救い

1) たとえツイバのような者であっても

おそらくそれは、ツイバが何をしたのかと関係しているでしょう。先ほど、ダビデが困っていたときに多くの食料をもって駆けつけたことを見ました。彼は嘘をついたのかもしれませんが、ダビデを助けたことは否定しようがない。このことが評価されて、ツイバにも恵みは施されていった。そう見るべきでしょう。

何かすっきりしないでしょうか。ダビデを助けたのはそうかもしれないけれど、嘘はよ

くない。少なくとも元どおりに土地はすべてメフィボシェテに戻すべきだ。それが公平だと思うかもしれません。

でも私たちは、ツイバのことを批判する権利があるのでしょうか。彼は主人を裏切って中傷するひどい男だったかもしれません。よく考えてみると、私たちで同じことをしていたのではないか。「神さま救ってください。助けてください」と祈りながら、一方で神の前にいつも正しい人間であったと自信をもって言えますか。心の中で人をねたみ、あるいは殺し、あるいは中傷するようなことをさんざんやってきた。そんな者でも、「神さま助けてください」と言う者を見捨てない。そうやって私たちは救われたのではないですか。ツイバのような者にもメフィボシェテとおなじ取り分を与える。そう言うのが神だと言うのです。不公平だと言うのでしょうか。確かに不公平です。神の救いは不公平と思われるほど、豊かに与えられてくださっていたのです。

2) メフィボシェテの信仰を通して

さて最後に考えます。メフィボシェテのことです。ツイバが中傷したために土地を半分失ってしまいました。何も悪いことをしてなくても、こんな扱いです。どこに神の恵みがあるのかと疑問に思います。でも、彼のことに注目します。28節。「王さまから見れば、死刑にあたる者に過ぎなかった。」「王さま」と訳していることば。原文では、「わが主、わが王」となっていることばです。わが主、王の前では自分こそ死ぬべき者である。まして土地をいただける資格のない者である。メフィボシェテは神の前に自分は罪人であることを告白していました。そんなメフィ

ボシェテの信仰はどのような影響を及ぼしたでしょうか。あのツイバでさえ救いの恵みに預かった。

それは主イエス・キリストのことを思い起こさせます。わが王、わが主の前で、すなわち父なる神の前で、この方は十字架の上で死ぬべき者になりました。そして言われました。「彼が全部でも取ってよい。」この方ではなく、私たちが救いの恵みを全部取ってもよい。そう言ってくださった。それほどまでしてご自分を投げ出し、私たちに救おうとされた。

こんな不公平な話はありません。でもそれが神の救いだったのです。恵みを覚えて感謝いたします。